

か も
KAMOMIーる
か お
KAWO首ーる

TOPICS

- * 男女共同参画推進シンポジウム
- * 出前講義(秋原北中&春日小学校)
- * 医学部共催FD
- * かもみーる紀行
- * 保育園たより



~NEWS Letter~ 18号 2011.12

男女共同参画推進シンポジウムを開催

平成23年12月7日(水)、岐阜大学男女共同参画推進シンポジウム「男女共に学びやすく働きやすい大学をめざして」を開催し、学内外から約180名の方々にご参加いただきました。

最初に、森秀樹学長より、大学は男女共同参画が遅れている分野のひとつ、勉強したいと挨拶がありました。

基調講演では、「男性にとってのワーク・ライフ・バランス 男女共同参画」と題し、内閣府男女共同参画会議専門委員の渥美由喜氏より、ご講演をいただきました。渥美氏は、組織がワーク・ライフ・バランスに取り組むメリットについて触れ、生産性を上げる取り組みが個人と組織の双方を成長させる、それには管理職のマネジメントがポイントと述べられました。また、ご自身の育児・介護経験についてお話しされ、ワークにもライフにも真摯に向き合う(ポジティブシンキング)の効果を述べられました。



講演する渥美由喜氏

ワークにもライフにも真摯に向き

引き続き行われたパネルディスカッションでは、林正子男女共同参画推進室長をコーディネーターとし、渥美氏、村瀬忍 教育学部教授、大屋賢司 応用生物科学部准教授、元平佳作 人事労務課長をパネリストに迎え、大学の現状と課題について各々の立場から討論が行われました。村瀬氏は、育児期には時間がなく、常に不安を抱えていたことに触れ、研究補助員配置制度の利用は精神的な支えになったと話されました。大屋氏は、育児期には男性においても時間がなくなり、他の人に授業等をお願いすることのできない現状では、研究時間を削らざるを得ないことを話され、男性も利用できる制度への期待を述べられました。元平氏は、コミュニケーションから気づきが生まれることを実感した経験に触れ、若い人には積極的に上司などにも相談してほしいとアドバイスされました。最後に、林室長が、制度だけでなく制度を利用しやすい風土の必要性に言及し、ワーク・ライフ・バランスは出産・育児・介護だけでなく、趣味や地域活動などすべての人に関わるもの、「お互い様」の気持ちを持ち、多様な生き方ができる環境づくりを進めていきたいと述べました。

おわりに、吉村泰治理事(総務担当)が、「意を用いて取り組まなければならない」と、本学でも男女共同参画をさらに推進していく姿勢が示されました。



森秀樹学長



会場の様子



パネルディスカッションの様子



吉村泰治理事

男女共同参画意見交換会を開催

12月7日、シンポジウム後に男女共同参画意見交換会を開催しました。岐阜県内の各自治体で男女共同参画に取り組む担当者16名(12自治体)が参加し、カモミール・カフェの視察後、男女共同参画を進めるうえで抱えている課題、男女共同参画における地域連携のあり方について話し合われました。

会では、「県下統一のテーマを持って行事を展開し啓発していく」「既存の地域団体との連携を図る」「インターネットを通し情報の共有化を図る」など地域連携について多くの意見が出され、地域と大学との連携を深める良い機会となりました。



サイエンス夢追い人育成プロジェクト 実施報告

日時：平成23年11月15日 対象：下呂市立萩原北中学校1, 2, 3年生(138名)
 講師：小森 麻弥さん(応用生物科学研究科 修士課程1年)
 山口 早希子さん(応用生物科学研究科 修士課程2年)

1年生および2年生には小森さんが「私の研生活とこれまで」と題した講義を行い、自らのラオスや岐阜大学での研究活動について紹介しました。その後、これまでの進路選択を振り返り、「悩みながらの進路選択を行ってきたがその都度、後悔しないように自分なりに考えてきた。新しい出会いが新しい可能性を連れてくる。自分のやりたいことを考えて興味のある方へ!」と伝えました。

3年生には山口さんが「わたしの進路選択」と題した講義を行い、はじめに自分が行っている酵母についての研究を紹介しました。生徒からは「酵母に興味を持ったのはいつからですか」、「酵母のエサとして使用するメタノールの代わりにエタノールは使えないのか」などの質問が活発に出され、研究内容について多くの関心ももたれたようです。続いて行った進路選択についての講義では、これまでの進路選択の際に実践してきた「自分の目で見て、自分で決める」という姿勢を伝えました。

研究の部分では中学生には少々難しい事柄も含んでいましたが、たくさんの質問が出され研究内容についてしっかりと伝えることができたようです。また、多くの質問を受けたことから今後さらに研究を深めなくてはならないと考える機会になったようです。



小森さんの講義の様子



山口さんの講義の様子

受講した生徒の感想(抜粋)

- ・理科に興味を持つことが出来ました。
- ・自分のやりたいことを自分の中で確認し、その夢をかなえるために今から勉強をし、なんにでもチャレンジしていくことを学べました。
- ・前よりももっと、進路について考えたいと思いました。
- ・勉強するときと遊ぶ時をしっかりと区別して生活していくようにしたいと思いました。
- ・大学はおもしろいところというイメージが伝わってきて、どんどん大学に進学したくなってきました。
- ・外国に興味はなかったけど、いろんな違いがあって楽しそうかも、と思いました。

日時：平成23年11月25日 対象：揖斐川町立春日小学校5, 6年生(11名)
 講師：吉澤樹理さん(連合農学研究科 特別協力研究員、日本学術振興会特別研究員)

「アリと私」と題した約50分の講義では、×クイズをしたり、アリの標本を見せたり、実際に吸虫管を使ってアリを採集の体験を行うなど、小学生の興味を引き付ける工夫が随所に見られました。最後に、「夢を持つとう! チャンスは必ずやってくる。コツコツと準備しておくことが大事。」と伝えました。児童たちからは沢山の質問が出され、科学に対する興味を喚起する機会となったようです。

受講した生徒の感想(抜粋)

- ・将来のことをいろいろ考えられたからよかったです。
- ・吉澤さんみたいに夢に向かっていきたいと思いました。



現在までに
7校で11回
 実施しました

このプロジェクトは、小中高生に身近なロールモデルとなるポスドクや女性大学院生が研究の魅力や歩んできた道を紹介することによって、「サイエンス夢追い人」=「科学者を志す学生」を増やすことを目的に始めたものです。本プロジェクトにより、大学院生には、教育経験を通して自らの研究内容や社会的意義を見つめ直すことで研究に対する意欲向上、スキルアップが期待されます。



第2回 医学部共催FDを開催

11月16日(水)に医学部1階大会議室にて、男女共同参画推進室・医学部共催で第2回医学部FDを開催し、48名の参加がありました。

今回は山本纈子先生(藤田保健衛生大学名誉教授・並木病院院長)に「女性医師支援の現状と問題点」と題し講演を行って頂きました。

講演では、国際指標からみた日本の女性が置かれている現状や日本の男女共同参画予算の現状、また、女性医師に特有の問題点についてご説明頂きました。山本先生は、「女性医師」と一括りにしないで、婚姻の有無や子どもも要介護者の有無などの社会的・家庭的状況に目配りをすると同時に、当該者の心理的状況・目的意識の違いを考慮して支援を行う大切さを訴えられました。

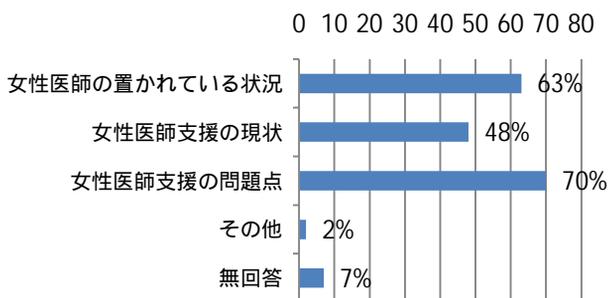
出席者の皆様にはアンケートにご協力頂きましたので、以下にご紹介いたします(一部)。



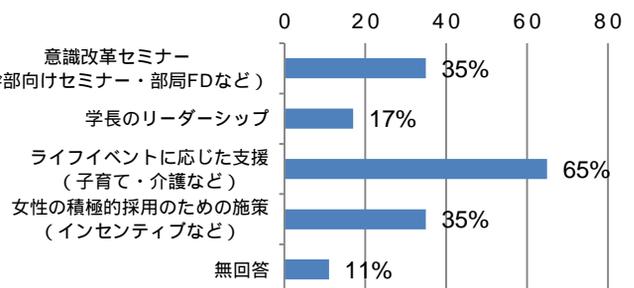
山本纈子氏の講演の様子

～アンケート結果～

このFDにより理解が深まった項目



本学において男女共同参画の推進に必要と思う項目



第6回 女性医師就労支援の会を開催

11月16日(水)に医学部大学院講義室において、第6回女性医師就労支援の会が開催され、学生や教員の23名の参加がありました。

今回はお二人の先生をお招きし、まず榎本由貴子氏(岐阜大学医学部附属病院脳神経外科 助教)から、「人生はガンバったほうが楽しい」の講演があり、医師として「適当に」は許されず、女性はいままでは権利を得る時代であったが、これからは義務を果たす時代であることを強調されました。続いて、山本纈子氏から、「期待される女性医師支援とは 何故、女性医師は離職するか？」の講演があり、女性医師が医師、配偶者、母親、子として期待されることを話された後に、女性医師の離職状況とその理由を提示されました。そして問題解決の方策として、職業人としての自覚、柔軟な思考、自分の信じる道に進むこと、が重要であるとお話しされました。

参加した聴講者は、感嘆の声やときには笑い声などもあげながら、お二人のお話を真剣に聴いておられました。女性医師としての先輩から医師としての心構えを聞くよい機会になったようです。



榎本 由貴子 氏



岐阜市が男女共同参画優良事業者表彰 表彰式・記念講演会を開催

岐阜市は、毎年、男女共同参画推進に向けての取組を積極的に行っている事業者を表彰しており、平成23年度の表彰式・記念講演会が、11月14日(月)、ハートフルスクエア-Gにおいて開催されました。

今年度受賞者

合資会社 旅館すぎやま
株式会社 大垣共立銀行(岐阜市内の各支店・出張所)
公益社団法人 岐阜病院

記念講演会

未来工業株式会社
代表取締役社長 瀧川克弘氏
「ワーク・ライフ・バランスの
メリット～会社も社員も元気に～」

事務系職員対象の「ワーク・ライフ・バランス研修(全3回)」を初実施

事務系職員研修として、本学では初めて、ワーク・ライフ・バランスをテーマとした研修が実施され、56名が受講しました。

第1回 12月5日(月) ～自分自身のWLBを考えよう～

- 1.働く上で大事にしたいことを考える
2. WLBとは？なぜ取り組むのか？
3. ライフラインチャート、ライフイベントから考える
4. 5つの役割からWLB実現度を考える
5. 自分の理想のWLBを実現するために

第2回 12月7日(水)

岐阜大学男女共同参画
推進シンポジウム 聴講

第3回 12月15日(木) ～職場のWLBを考えよう～

1. WLB実現度を考えてみよう
2. WLB実現に向けた取り組み事例
3. 職場のWLB改善するために
4. これからのキャリアパスイメージを作ろう
5. 職場のWLBを実現するために、あなたは何をしますか？

* WLB = ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

かもみーる取材紀行 第5弾 岐阜薬科大学 永澤教授 インタビュー(前編)

岐阜薬科大学では唯一の女性の教授で、孤軍奮闘中の永澤秀子先生(創薬化学講座化学研究室)に岐阜薬科大学の現状やご自身のキャリアについて伺いました。2号に亘ってお伝えします。



永澤秀子先生
岐阜薬科大学卒業後、
京都大学にて博士号
(薬学)取得。慶応大
学、徳島大学などを
経て、現在は、岐阜薬
科大学教授。ご家族は、
ご主人、二人の娘さん。
現在は単身赴任中。

☞ 岐阜薬科大学の現状について教えてください。

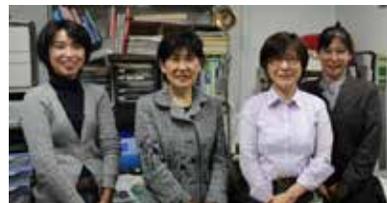
女子学生の割合は約半分。総代を女性が務めることも多く優秀ですが、教員となると数も少なく、助手までにはしかなれない現実があります。現在、女性の教授は1名、准教授2名(実践社会薬学、教養科目 英語)です。

☞ 学生さんの就職先について教えてください。

研究者としては、企業(製薬会社)への就職が多いです。アカデミックは3Kだと思っている学生さんが多いのでは・・・。

☞ 出産・子育てと研究をどのように両立してきましたか？

慶応大学では、当時は無認可保育園しかなく、保護者がバザーなどを行って資金を賄っていました。東京には主人と母がいるので、手伝ってもらいました。その後、徳島に移ってからは、主人も母もいませんから、家政婦さん、保育園の先生、近所の塾の先生などの協力で何とかやってくれました。しかし、子育てというよりは、子どもとの“共同生活”という感じでした。



三宅室員、清島室員、永澤教授、林室長

保育園たより : 勤労感謝の日

平成23年11月22日(火)、勤労感謝の日を前に学内保育園「ほほえみ」白鳥組の園児10名が、日頃の感謝と慰労のため、総務部長室を訪れました。あいにく総務部長は会議出席で不在のため、代理で元平人事労務課長が園児手作りの記念品を受け取り、お礼を述べました。



偶然にも、元平課長に
そっくり(?)なサンタさん

岐阜大学男女共同参画推進室(人事労務課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/sankaku/>
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 Tel: 058-293-3378 Fax: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

* 男女共同参画に関するご意見・ご要望は男女共同参画推進室へお願いします。

